

# 参加者が事例をもとに活発な意見交換

## リカバリーサポート・ネットワーク 「援助職者・サポーター養成講座」開催



ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西村直之代表)は8月27日(水)、依存問題を抱える人々に対する援助職者・サポーター養成講座「事例から学ぶギャンブル問題への理解と対応」を、横浜市の神奈川県司法書士会館で開催した。依存問題に関わる医療、福祉、司法、金融関係者等、約40人が参加した。

「援助職者・サポーター養成講座」は、RSNが援助職者を育成し、ぱちんこ依存問題への介入や対応へのノウハウを整備することを目的に今年度からはじめたもので、今回で2回目となる。(第1回講座は6月に沖縄で開催)

講義に先立ち、西村代表から「ギャンブル問題の基礎知識」として、合法性や

■ギャンブル問題の位置付けと評価  
担当講師：西村直之(RSN代表)  
「娘が夫婦でパチンコ店に入り浸り、孫

金額の多寡を問わず「宝くじからサイコロ賭博まで」偶然による不確定な結果にみずからの価値あるものを失う危険を冒し、時間・お金・信頼・将来等を賭ける行為がギャンブルであるといううこと、ギャンブル依存は精神医学的にどこにも分類されない衝動制御の障害であることを念頭に置いてほしい、という内容の説明があった。

次に、回復者からの体験談として、依存問題を抱えていた男性、依存問題を抱え回復施設に入所した息子を持つ父親から、経緯と回復の流れについての話があった。

体験談が続いて、以下の3事例をもとに、異なった職種に参加者が円卓を囲む8人程度のグループの中で、それぞれの立場から意見を出し合ったあと、担当講師が講義する形式のケーススタディが行われた。

最後に、西村代表から、「ギャンブル問題の援助のあり方」として、「借金の有無

が車内放置事故に巻き込まれない心配」という母親の相談から

対象者の家族構成や生育歴を踏まえたうえで、このケースの抱えている問題点についてグループミーティングを行い、各グループで意見を発表したあと、西村代表が対象者の抱える問題を金銭面や家族関係、暴力、情緒・感情の問題等から多角的に評価する方法について解説した。

■多重債務への介入と対応  
担当講師：稲村厚(司法書士)

「一度自分が援助して完済させたのに、夫がパチンコでまた借金を作った。何とかしてほしい」という妻の相談からこのケースをもとに、債務問題を抱える

家族・本人に対してどのようにアドバイスをするかというテーマでグループミーティングを行ったあと、NPO法人ワンダーポート理事長で司法書士の稲村厚氏が、ギャンブルによって発生した債務を整理するときの注意点、家族がどのように介入し回復につなげていくかについて解説した。

■当事者にとって回復とはどのようなことか  
担当講師：中村努(ワンダーポート施設長)

「弟のギャンブルのめり込みを、回復施設で更生させたい」という兄の相談からこのケースの対象者である弟が回復していくときに一番必要な支援は何かというテーマでグループミーティングを行ったあと、ワンダーポート施設長の中村努氏が、ギャンブル問題を抱える当事者にとっての回復、援助者や家族に求められる支援等について解説した。

は問題の重症度ではない」「ギャンブル行為の中断、金銭問題の解消、就学・就労・結婚等だけでは問題解決にならない」「周囲の援助はタイミングや方法によっては回復支援につながらない」ことを基本原則に、対象者への介入の方向性を選択し、悪循環を止めて根本的な問題解決につながる長期的な回復支援が必要である、との総括があった。

講義終了後の質疑応答でも活発な議論が交わされ、異なった職種の参加者がそれぞれの視点から意見を出し合うことで多角的な情報が共有でき、援助者が依存問題を抱える人々と向き合ううえで非常に有意義な一日となった。



ワンダーポート  
中村 努施設長



ワンダーポート  
稲村 厚理事長



リカバリーサポート・  
ネットワーク  
西村直之代表